

## 結社の門柳

# 東葛川柳会二十九人集

東葛川柳会は昭和六十二年十月二十四日(土)、当時川柳不毛の地といわれた千葉・東葛飾地域で誕生した。

代表は江畑哲男。創立当初からのモットーは「楽しく学ぶ」。社会の一員として行動し、時代を見つめ、結社の垣根を越えて交流し、川柳を楽しみながら学ぶことを実践している。生涯学習活動を重視して川柳人口を拡大し、グローバルかつローカルな視野を忘れずに活動するオープンでユニークな川柳の会として高い評価を得ている。

毎月第四土曜日に柏市内で句会を催し、関東の川柳結社では最大規模の句会参加人数を誇る。

機関誌「ぬかる道」を毎月発行。誌名の由来は、俗諺の下総名物「悪女・こんにやく・ぬかる道」から。読者を飽きさせない多彩な企画による充実した誌面づくりを展開、また創立直後から全国に先駆けて川柳IT化の早期実現を果たし、現在も当会で発表された作品は全てデータベース化されている。会員のパソコン普及率も高い。

書籍では五年ごとに合同句集の記念出版を企画し、十周年に『川柳贈る言葉―二十一世紀へ向けて二四八人のメッセージ』、十五周年に『川柳ほほ笑み返し―二一八人のユーモアのぬくみ』、二十周年に『ユニークとかつ類題別秀句集』、二十五周年に『ユーモア宣言!』をそれぞれ刊行。

月例会のほかに一月の新春句会、十月の記念大会における著名識者による講演が注目を浴びている。平成四年に設立した初代代表の名を冠した「今川乱魚ユーモア賞」は「とかつユーモア賞」として引き継がれ、大会等で上位受賞者を表彰している。傘下に川柳会・新樹、川柳会・緑葉、川柳会・双葉、ほのほの川柳会、野田川柳会、川柳会・江風などの勉強会が熱心に活動中。そのほか吟行会や全国大会、海外ツアーなども企画し、会員内外に好評を博している。



新井季代子

胸キュンとさせる不滅のプレスリー  
年取って豊麗線という宝  
おサイフに万札ばかりある不満



伊師由紀子

上5音200の耳が待ちわびる  
脳がハツとする下5を届けます  
中7で遊んでごらん初句会



石戸 秀人

ソクラテス乳房の謎は解きあぐね  
諍いの昨日を反古にする微笑  
絵の動く本を見ている子供の目



岩田 康子

桜にも秋入学を打診する  
スローライフ息けただけかも知れぬ  
夫流みそ汁が出る定年後



植竹 団扇

ペン胼胝と別のところに当たる鉄  
銃弾の貸し借りもする隣組  
憲法の矩を超えない天皇家



上田 正義

灯が点る窓辺に詫びる千鳥足  
踏み切りは真直ぐ渡る千鳥足  
夢だった父と肩組む千鳥足



上西 義郎

ケータイを持って増殖する孤独  
舌回る人裏方にまわらない  
終戦は敗戦と言う僕の意地



江畑 哲男

熱血教師のまま還暦となりけり  
こんな顔ですカルチャーの講師です  
世のため人のため川柳のため生きん



大戸 和興

頭にも欲しいと思う二毛作  
和解するビール冷たく温かい  
ネーミングうまいと米も旨くなる



大竹 洋

いい歳を取ったね恥を捨ててない  
脇道を歩く無骨に花が咲き  
師の笑顔漢方薬のように効き



折原あつじ

やりくりで歩を金にする山の神  
前向きに生きて加齢は気にしない  
若いっていいなあ白い地図がある



川崎 信彰

ノンポリに国の未来を握られる  
深呼吸一番したいのは地球  
淋しさを多忙多忙がはぐらかし



川瀬 幸子

さざんかの袋小路に歌がある  
遊ぶ日の家事テキパキと妻の朝  
屋久島の時の神秘に逢いにゆく



窪田 和子

玉手箱開けるとイケメンとなった  
あなたの前で外すイヤリングを外す  
バリアフリーの家でなんにもひらめかぬ



河野 桃葉

紙コップ風にさ迷う花の下  
この街の職場に溶ける靴の減り  
まだ女灰になるまで恋をする



笹島 一江

直進者優先ですか人生も  
語る目に他言無用と書いてある  
夫婦にも点検が要る線路幅



佐竹 明吟

エンマ様人間すべて不合格  
おふくろのふくろの中は海である  
温暖化ムンクの顔になる地球



佐藤権兵衛

戦争がドアの向こうに立っている  
人類が地球の明日の鍵握る  
忙中閑仮面つけたり外したり



関根庄五郎

老いてなお伸び代がある鼻の下  
幾つもの引出しを持つ妻の愚痴  
称讃を浴びて嬉しいおかげ様



田辺サヨ子

芝さくらつくり笑いもあるだろう  
物忘れしたかの様に秋の蝶  
御破算で願いましたは米を研ぐ



中澤 巖

ドロボーでもするか年金へらされる  
衣食住足りて介護が待っている  
しつこく生きているのも気がひける



成島 静枝

百花より薔薇一本に口説かれる  
お静かに脱皮中です黒揚羽  
美しく老いる難問かも知れぬ



根岸 洋

言い切った時に始まる不安感  
最強のアイデアを出す怖じけ者  
平等をいうと地球がパンクする



長谷川庄二郎

その内にヒトも呼ばれる絶滅種  
野仏に黙って耐えるコツを聴き  
気が付けば彼女の胸に赤いバラ



本間千代子

ペアグラス割れてあの日に戻れない  
仏さまバナナにはもう飽きまして  
浮かぬ日は遺影の笑みに包まれる



増田 幸一

風と来て風と立ち去る好きな君  
ベテランがロボットと組むワークショップ  
素晴らしい今日の夕陽に帽子振る



宮内みのり

少年の十指日本の明日を編む  
ハッカーのネットに自動ドアがある  
陽が昇る争いの闇消すように



山本由宇呆

見上げれば船をさ初のジャパニーズ  
ボージャーは独り陽関を出る如く  
イカロスは翼アイソンは身を焦がし



六斎堂茂雄

桜散ると孫が帰ったような春  
渋滞の我慢のさきにある故郷  
離着陸終われば神に知らん振り



東葛川柳会

代 表 江畑哲男 / 幹事長 中澤 巖  
機関誌「ぬかる道」

年間誌代五〇〇〇円(二十共)

※見本誌歓迎